

1月定例記者会見 市長原稿要旨

はじめに1月21日にお知らせしました本市職員の新型コロナウイルス感染者発生に関する情報提供です。

本市では、陽性が確認されたとの一報を受けたのち、市民生活を停滞させることがないように、速やかな消毒作業の実施、竜ヶ崎保健所と連携した濃厚接触者の確認などを行ったところです。現時点で、市民・職員とも濃厚接触者はいないことが確認されております。

なお、市役所内では、日頃から職員に対する感染防止に向けた取り組みの徹底を行ってきたところではありますが、改めて、職場内の消毒、定期的な換気、食事における黙食などの徹底を指示したところです。

新型コロナウイルスは、時間や曜日、人を選ばない、見えない敵であり、私も含め、誰にでも、ひっそりと迫り、いつの間にか病に陥れるものです。

引き続き、市民の皆様の安全・安心を守る立場として、細心の注意を払い適切な対応に努めてまいります。

さて、季節は二十四節気の「大寒」を過ぎ、一年で最も寒い時期を迎えました。空気が澄んだこの時期には、関東平野に位置する本市からは遠くはスカイツリー、富士山まで望むことができます。そのような心安らぐ景色があることが、本市の魅力の一つでもあります。

「丑年」の本年は、夢や信念を奪われることなく、牛歩と言われようとも、一步一步、地に足をしっかりとつけ、進み続け、本市の魅力が多くの人に伝わるよう、そして、本市の明るい未来が開けるよう、取り組んでまいりたいと考えております。

先ほど、申し上げました通り、今年に入り、本市職員の感染が発生するなど、新型コロナウイルスの第3波は本市に襲ってきており、高齢者・若者・さらには未就

学児まで、世代を問わず、感染者の報告が相次ぎ、本市の感染段階がこれまでとは違うフェーズに入っていると認識しています。

本市では、“家庭内感染”が増加しつつあると分析しております。市民の皆様には、ウイルスを家庭内に持ち込まないために、「不要不急の外出を控える」「昼夜問わず会食は控える」「人と話すときには必ずマスクを着用する」といった感染予防対策の徹底をお願いいたします。

さらに、帰宅後、食事前後の「手洗い」「うがい」はもちろんのこと、家庭内での食事の際には、大皿をやめ、1人1人小皿で食べる、タオルや食器の共用を避けるといったきめ細かな対策が、家庭内感染の予防に繋がる取り組みの一つでもあります。

そして、正しい情報を入手し、正しく恐れ、適切な対策を緩めることなく、取り続けることが重要です。大切な家族、友人などを守るためには、龍ヶ崎市民、一人ひとりが行動を変え、自分が感染源にならない、そして、感染の拡大をさせないという決心のもと、引き続き、適切な対策の徹底をお願いいたします。

それでは、本日の情報提供に入ります。

はじめに、「～防災学習^で健康に～ハザードマップウォーキング」の開催に関する情報提供です。

本イベントは、水害時の円滑な住民避難行動を促進することを目的に、小貝川・利根川が氾濫した際に浸水が予想されるエリアのうち、川原代・北文間・龍ヶ崎の3地区にお住まいの高齢者を中心に、ハザードマップの見方やポイントを解説し、避難所までの実際のルートを歩く内容となっています。

開催は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場の過密防止を考慮し、

3地区に分け、川原代地区が2月9日、北文間地区は2月18日、龍ヶ崎地区では2月19日と分散して行います。参加者は各地区で募った約30名となる見込みです。

全国的に見ても、過去の災害では、特に避難行動に時間を要するとされる高齢者の逃げ遅れが課題となっており、東日本大震災における災害関連死は70歳以上の方が全体の47%を占めていたとの統計もあります。

小貝川・利根川の氾濫時に浸水が想定される地域が市内には約3分の1程度、存在しています。これまでも防災の手引きの全戸配布、各地区などでの避難訓練などを通し、防災・減災日本一を目指すまちに相応しく、防災知識の充実を図ってまいりました。

一方、避難行動の際は、自身のお住まいの地域について知り、「いつ・どこに・どのように」避難するかを事前に確認しておくことに加え、避難をするために健康な体の維持、そして体力づくりに平時から取り組んでいくことも肝要とされています。

今回のイベントでは、そのような課題を解決するべく、総務省消防庁が取り組む「消防団・自主防災組織等連携促進支援事業」の採択を受け、「防災」分野の視点だけではなく、「健康」の視点を盛り込むことから、流通経済大学スポーツ健康科学部の全面的なご協力をいただきます。

防災教育と健康維持・体力づくりを同時に取り組む事例は全国的にも稀であると伺っており、このような施策を展開できるのも、これまで龍ヶ崎・流連携事業で築き上げてきた流通経済大学と本市の信頼関係の賜物であると考えています。

本イベントを通じて、多くの方の防災知識の充実を図り、さらに、健康維持・体力づくりを意識する契機となることを期待しているところです。

次に、中根台中学校の2年生が本市の魅力度向上のために、独自の視点で改善点・アイデアを発表する「龍ヶ崎市魅力探しの旅～プレゼンテーション～」に関する情報提供です。

この取り組みは、コロナ禍により、自然体験活動や職場体験活動など、社会参画力を育む上での貴重な学習機会を制限せざるを得ない中で、いかに子ども達の学びの場を確保するかという視点のもと、龍ヶ崎市の魅力を発信する学習に取り組んだ成果として、本市の魅力をさらに高める提案を発表するものです。

プレゼンテーションは、1月29日 金曜日 午前10時から、中根台中学校体育館で行われます。

昨年10月には、事前学習として、本市シティセールス課職員が講師となり、「地域の魅力を発見する授業」を行い、調査・発信の見通しをもてるように働きかけました。

その後、生徒の皆さんは、事前学習などを踏まえ、本市への興味・関心を新たに広げ、本市のPRポイントを発見するフィールドワークに取り組んだと伺っております。

フィールドワークでは、本市の気になるスポットに足を運び、タブレット端末を活用し、現地の様子を撮影したり、利用者の気持ちになって、改善点や魅力度をアップするための手法を考えたりしたとのことでした。

本市では、今年度より「生きる力」を基盤とした社会参画力を育成するための「龍の子人づくり学習」に取り組んでいるところです。

この取り組みは、学校や地域の実態を考慮し、義務教育9年間を一つのまとまりとして捉え、学校と地域が連携して体験学習などを実践することで、子ども達が夢や希望を育めるようにと、中学校区ごとにカリキュラムを作成しているものです。

本市の未来を担う中学生が、社会の構成員として、情報技術を効果的に活用しながら、地域課題の解決に向けた自分の考えを発信していく本活動は、子どもたちにまちへの愛着を醸成するとともに、成長を促し、本市が目指す「夢をもち 生きる力を自ら育む 龍の子」の実現、さらには、本市の明るい未来に繋がるものであると確信しております。

当日は、私も平塚教育長とともに、中根台中学校に足を運び、中学生の皆さん

の柔らかい発想、これからの時代を担う人材ならではの視点で考えられた発表を目にすることを楽しみにしているところです。

なお、本日、この場には、中根台中学校の代表の白戸 正紀(しらと まさき)さん、加藤 昂(かとう すばる)さんにお越しいただいております。このあと、おふたりからも説明がありますが、本市の中学生が“ふるさと龍ヶ崎”を良くしていこうという想い、そして、中学生ならではの柔軟なアイデアの発表を記者の皆様には、ぜひ取材いただきたく、お願いいたします。